

文 やづきみちこ 絵 小川かなこ

ペーとぼく



ペーとぼく

文 やづきみちこ 絵 小川かなこ

くもん出版

くもん出版

ペーとぼく

文 やづきみちこ

絵 小川かなこ



ぼくが ぼくに なったときから ペーは いた。
ペーと ぼくは おんなじ5さい。おとこどうし。

ぼくが うまれた つぎの ひに
パパが ひろってきた。
あかちゃんが うまれたばかりなのに ねこなんて！
と ママは おこったらしい。

うちに きたときに
「ペシュッ」って くしゃみを したから
「ペー」って なまえに したんだって。
「ペシュッ」じゃなくて よかった。
だって よびづらいもの。



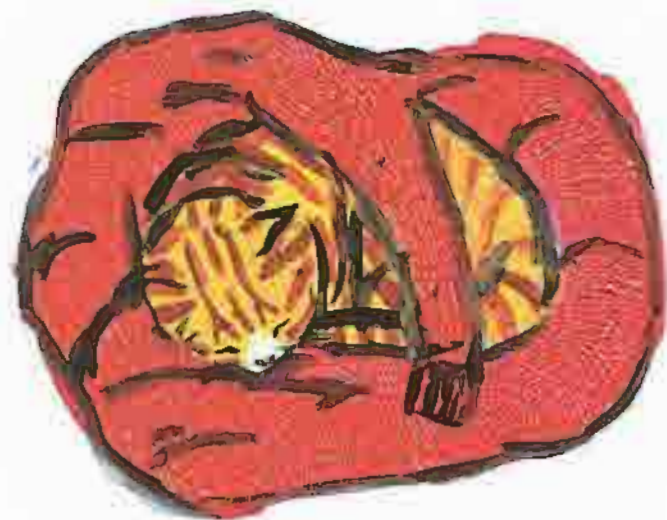
ぼくが ベッドに はいると
ペーも ついてくる。
ペーと ぼくは いっしょに ねる。

ペーが おなかに のると すごく おもたくて
いきが くるしくなるけれど
ペーが ぼくの かおを じっとみて
ぼくも ペーの かおを じっとみて
ぼくたちは とても うれしい きもちになる。

ペーの ふわふわの けを さわりながら
ねむると いいゆめが みられる。



ペーは いつだって ねてる。
おいしいの なかや いすの うえ。
おふろばの あしふきマットや
パソコンの キーボード。
ぬぎすてた セーターに くるまっていたり。
すいはんきの なかで まるまっていたり。



ぼくが おふろから できるころに
おきだして へやじゅうを かけまわる。



パパの ほんを たおして
ママの スカートに じゃれて
テーブルの うえに とびのって
ぼくの コップを たおす。



そして また ねる。



ぼくは ペーが だいすき。
ペーも ぼくのことが だいすき。

ぼくは しょうがくせいになつた。
ペーが おなじクラスだったら いいのになあ。

ぼくが がっこうに
いっているあいだ
ペーは なにしているのかなあ。



どこかで のらねこが ないている。

ペーは そわそわして

まどの そとを みている。

あるよる すきをぬって

ペーが とびだした！

「ペー！」

ぼくは よるの なかを さがした。

どこにいったの ペー！

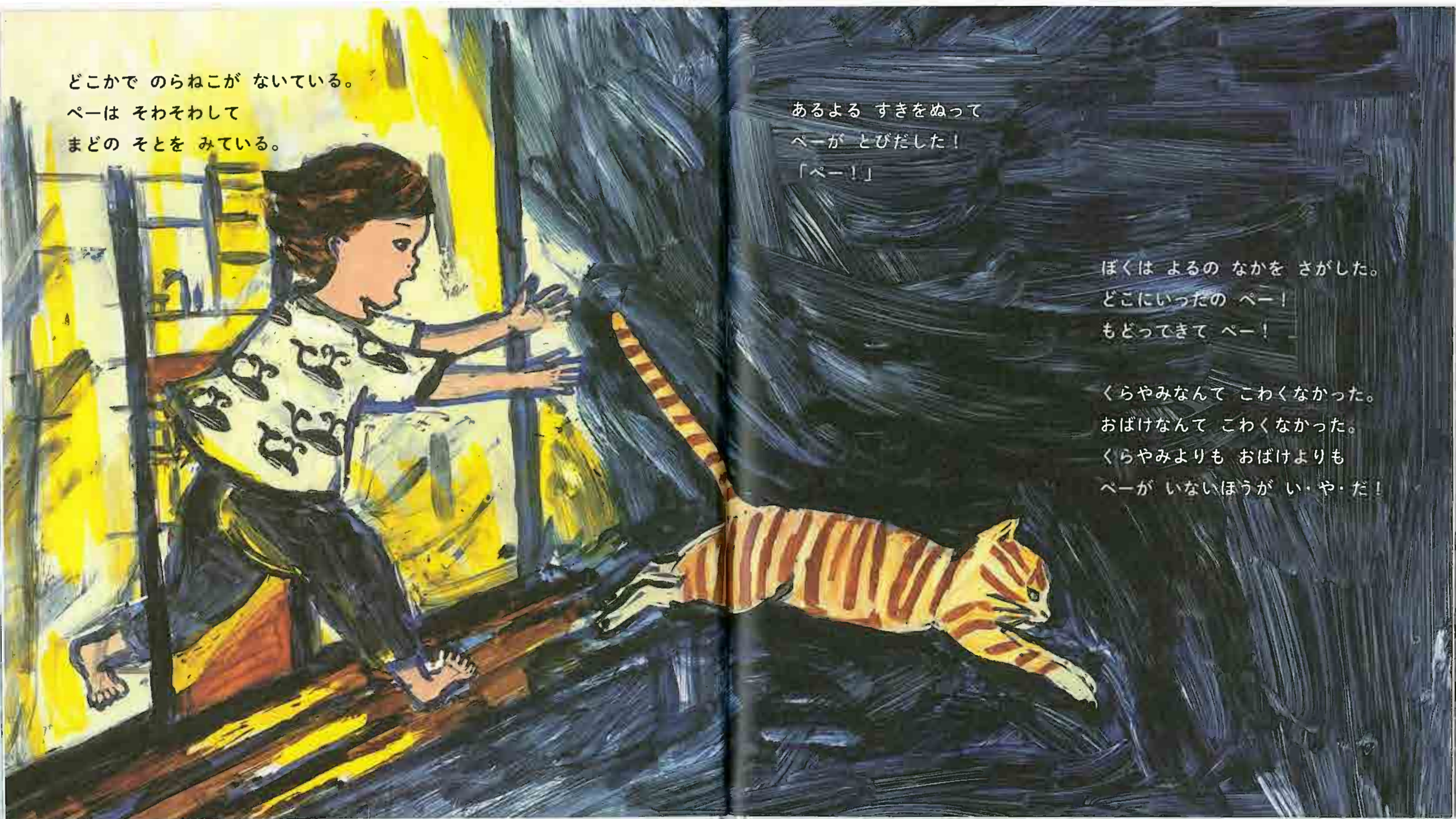
もどってきて ペー！

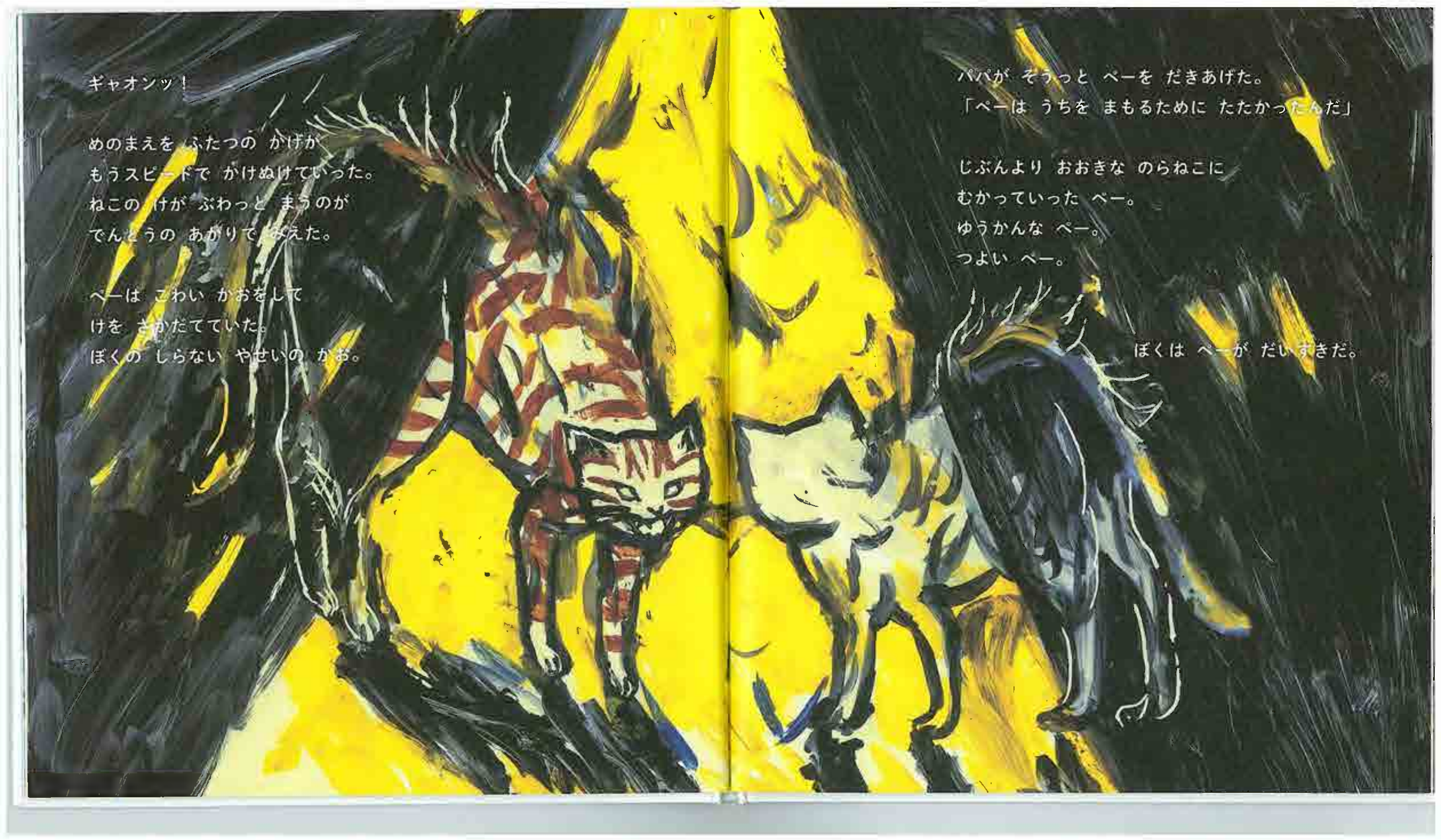
くらやみなんて こわくなかった。

おばけなんて こわくなかった。

くらやみよりも おばけよりも

ペーが いないほうが い・や・だ！





ギャオンッ！

めのまえを ふたつの かげが
もうスピードで かけぬけていった。
ねこの けが ぶわっと まうのが
でんどうの あがりで みえた。

ペーは こわい かおをして
けを さかたてていた。
ぼくの しらない やせいの かお。

パパが そうっと ペーを だきあげた。
「ペーは うちを まもるために たたかったんだ」

じぶんより おおきな のらねこに
むかっていった ペー。
ゆうかな ペー。
つよい ペー。

ぼくは ペーが だいすきだ。

ぼくは 9さいに なった。
ともだちが たくさん できた。



ペーも 9さい。
ペーは ひだまりの なかで
ぐるぐる ごろごろと
のどを ならす。

ペーの ぐるぐる ごろごろを きくと
ぼくは なんだか ものすごく
しあわせな きぶんになる。



あるひ ペーの おしっこが でなくなった。
おいしゃさんは むずかしい びょうめいを いった。
しゅじゅつが ひつようですと いった。

ペーは おなかを きって しゅじゅつをした。



きずが なおるまで
ペーは おむつを することに なった。

いえの なかが おしっこくさい。
おしっこくさいのは すきじゃない。



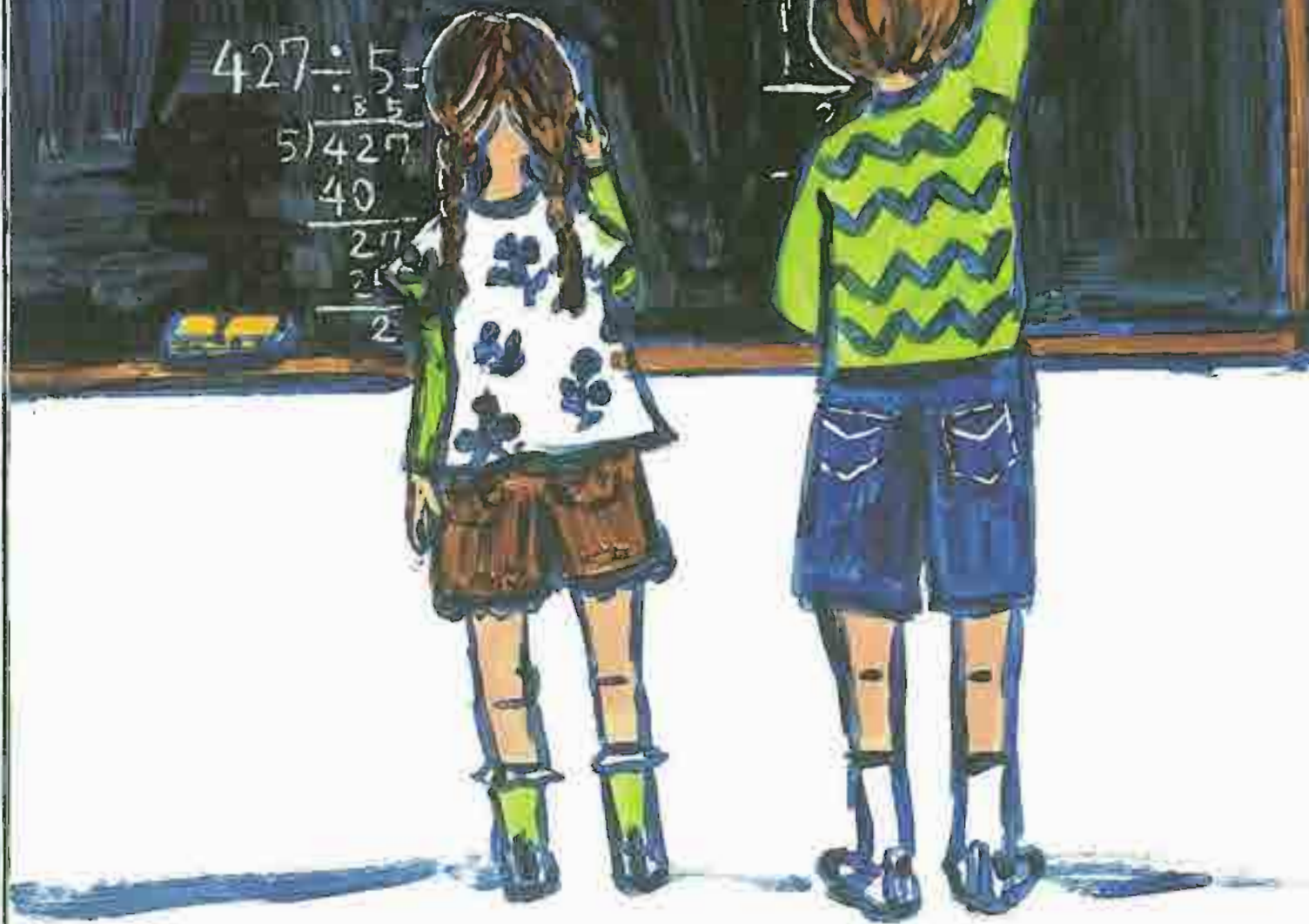
ぼくは 10さいに なった。
わりざんも できるし
むずかしい かんじも
たくさん かける。

$$625 \div 5 = 125$$

$$\begin{array}{r} 125 \\ 5 \overline{) 625} \\ \underline{5} \\ 12 \\ \underline{10} \\ 20 \\ \underline{20} \\ 0 \end{array}$$

$$427 \div 5 =$$

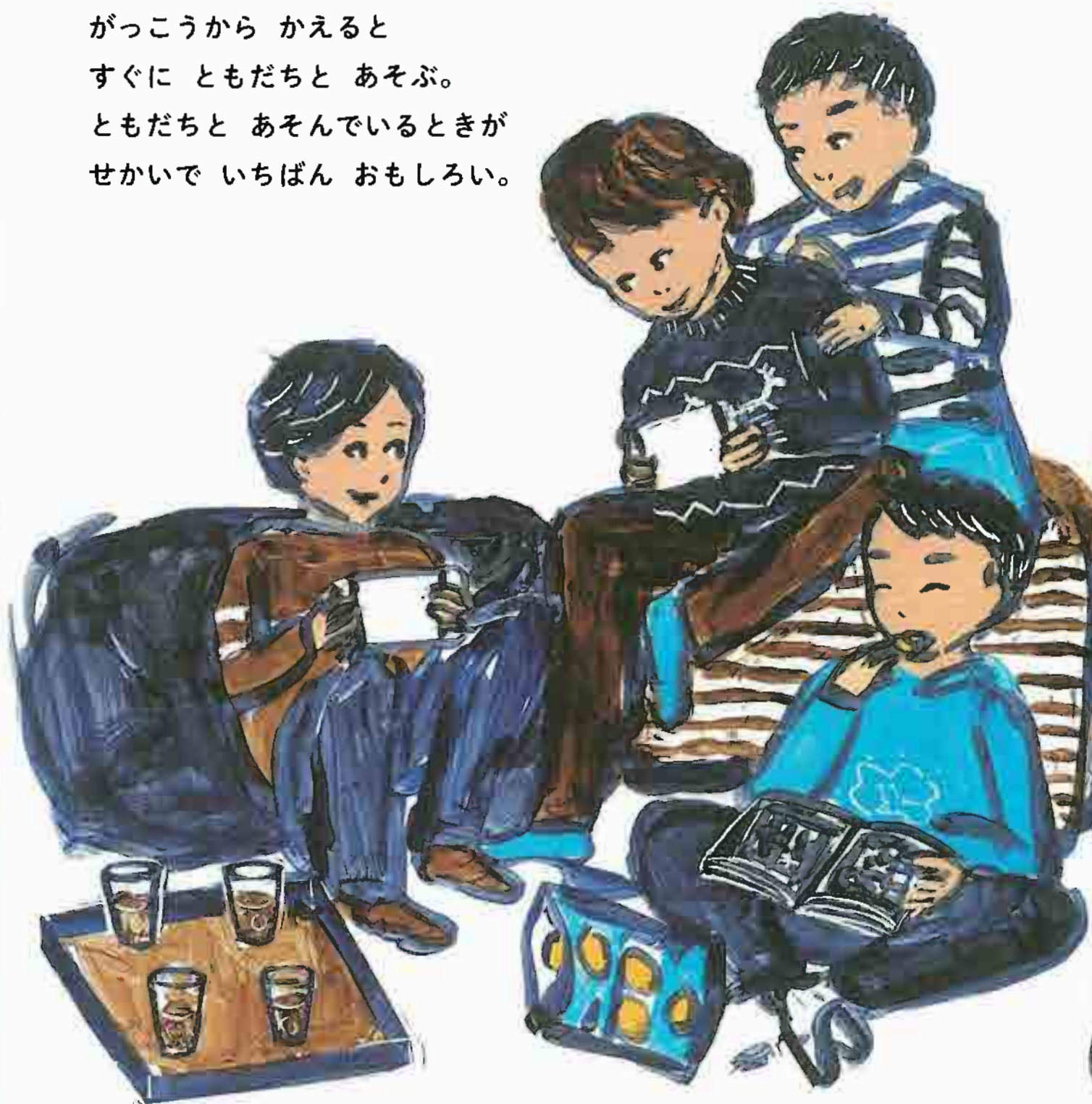
$$\begin{array}{r} 85 \\ 5 \overline{) 427} \\ \underline{40} \\ 27 \\ \underline{25} \\ 2 \end{array}$$



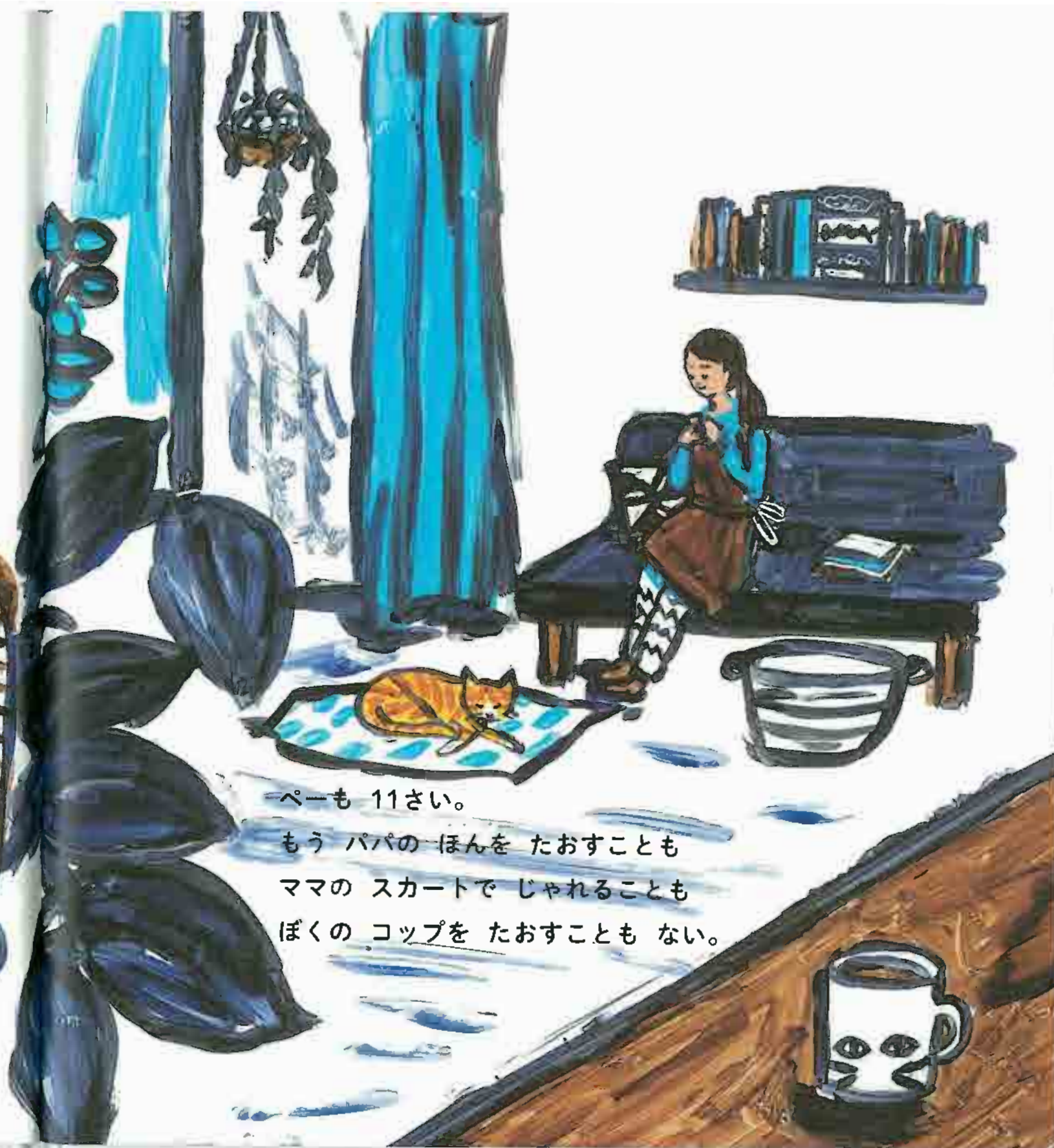
ペーも 10さい。
ペーは のらねこの こえが きこえても
まどべに いかなくなった。



ぼくは 11さいに なった。
がっこうから かえると
すぐに ともだちと あそぶ。
ともだちと あそんでいるときが
せかいで いちばん おもしろい。



ペーも 11さい。
もう パパの ほんを たおすことも
ママの スカートで じゃれることも
ぼくの コップを たおすことも ない。



ペーの おしっこが また でなくなった。

もう しゅじゅつは できませんと せんせいは いった。

まいにち どうぶつびょういんに つれて行って
せんせいに おしっこを だしてもらった。

ペーは いやがって からだを よじった。

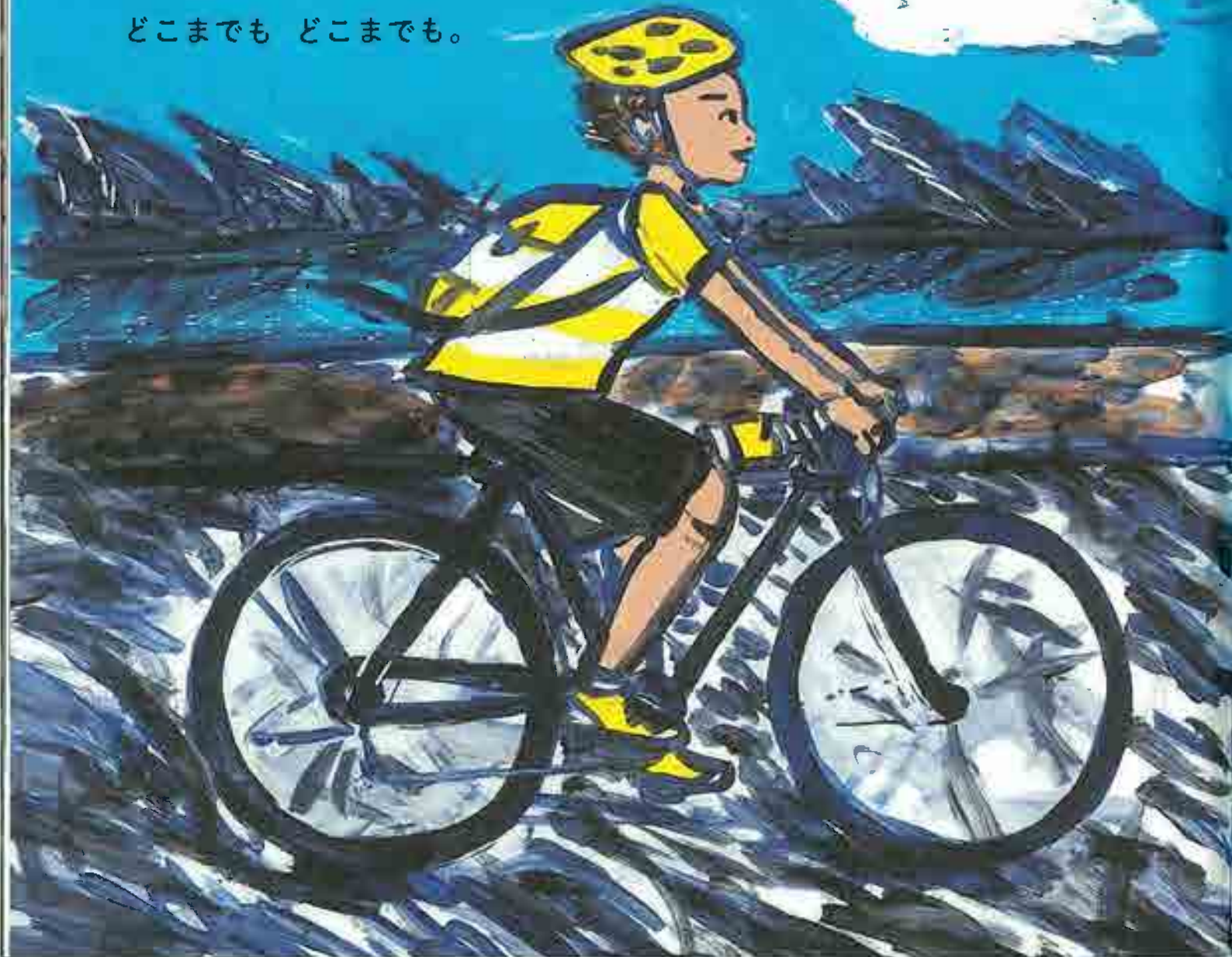
ぼくは いたいとき
おおきな こえを だしたり
ないたり するけれど

ペーは
いたって いわない。
ペーは
くるしいって いわない。

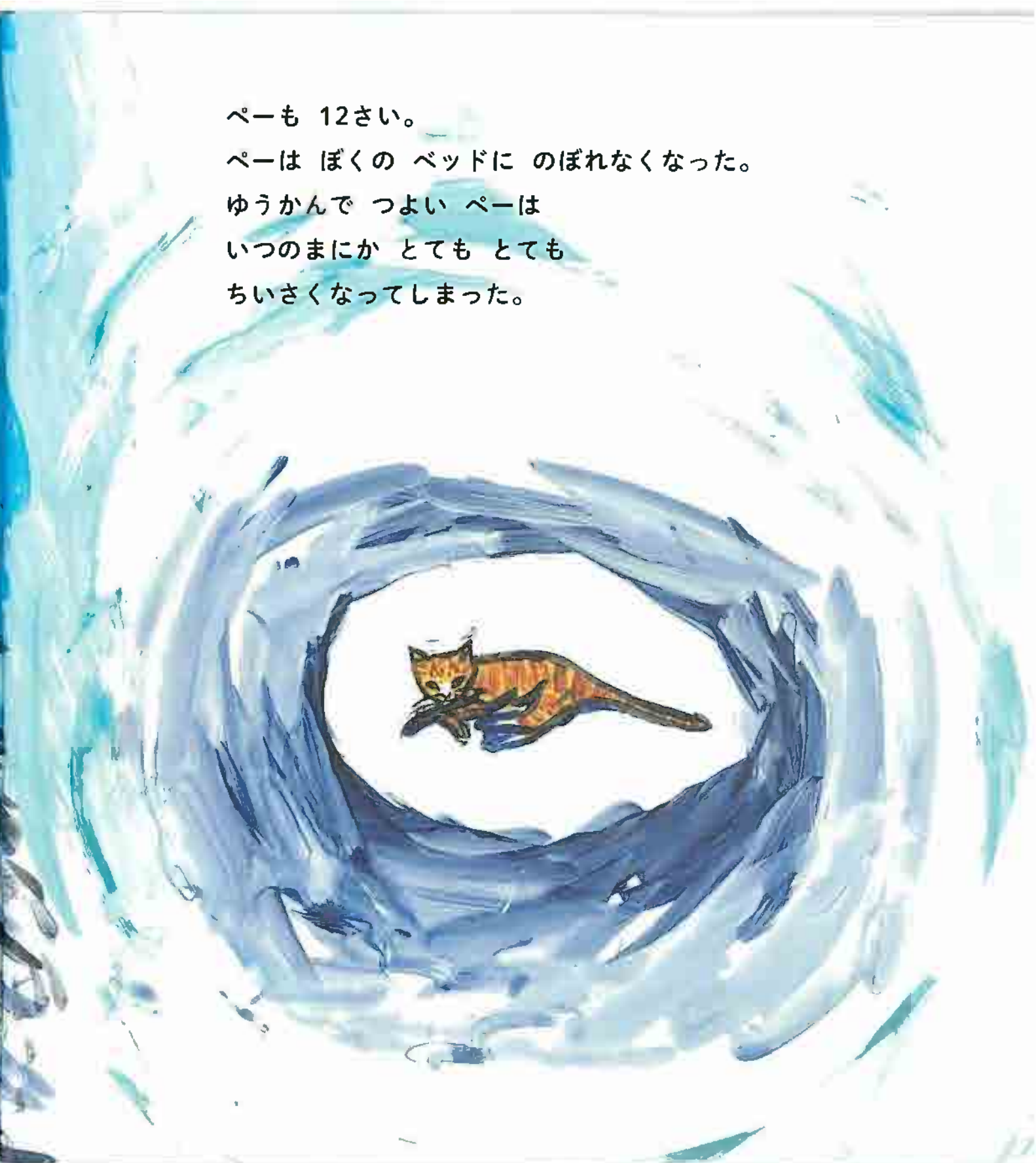


ぼくは 12さいに なった。
せが のびて たいじゅうも ふえた。
ぼくは とおくまで じてんしゃを はしらせる。

ぼくは どこにだって いける。
ぐんぐん ぐんぐん。
どこまでも どこまでも。



ペーも 12さい。
ペーは ぼくの ベッドに のぼれなくなった。
ゆうかんで つよい ペーは
いつのまにか とても とても
ちいさくなってしまった。



ペーは あまり たべなくなった。
ペーは あまり のまなくなった。



にゃん。

くびを もちあげて ペーが ないた。
それが さいごだった。

なまえを よんでも こたえない。
おなかを くすぐっても うごかない。

ぼくの からだは うごくのに
ペーの からだは かたまったまま。

さっきまで いきていた ペーは
しんだ ねこに なってしまった。

ともだちが よびにきて ぼくは あそびに いった。

みずいろの そらに

ペーの みみみたい な くもが うかんでいた。

ペーと あそんだ たくさんの じかん。

ペーと いっしょに ねた たくさんの よる。

ペーは いつも ぼくの そばに いてくれた。

ぼくの めが じんと あつくなって

ぼろりと なみだが こぼれた。



もう ペーに あえなくても

もう ペーの ふわふわの けを さわれなくても

もう ペーの ぐるぐる ごろごろを きけなくても

ペーが いきていても しんでいても

そんなの ちっとも かんけいない！

ぼくは ペーが だいすきだ。



ペーとぼく

2020年11月28日 初版第1刷発行

文 やづきみちこ

絵 小川かなこ

発行人 志村直人

発行所 株式会社くもん出版

〒108-8617 東京都港区高輪4-10-18 京急第1ビル13F

電話 03-6836-0301 (代表)

03-6836-0317 (編集部直通)

03-6836-0305 (営業部直通)

ホームページアドレス <https://www.kumonshuppan.com/>

デザイン アルビレオ

印刷 三美印刷株式会社

©Michiko Yazuki & Kanako Ogawa. Printed in Japan

NDC913・くもん出版・32P・24cm・2020年・ISBN978-4-7743-3091-4

落丁・乱丁がありましたら、おとりかえいたします。

本書を無断で複写・複製・転載・翻訳することは、法律で認められた場合を除き禁じられています。

購入者以外の第三者による本書のいかなる電子複製も一切認められていませんのでご注意ください。

CD29548

やづきみちこ (柳月美智子)

神奈川県生まれ。2002年、第42回講談社児童文学新人賞を受賞した『十二歳』(講談社)でデビュー。『しずかな日々』(講談社)で、第45回野間児童文芸賞、第23回坪田譲治文学賞、『明日の食卓』(KADOKAWA)で、第3回神奈川本大賞、『皆はおれと同年だった田中さんとの友情』(小峰書店)で、第69回小学館児童出版文化賞を受賞。その他の作品に、『るり姉』『14歳の水平線』(以上、双葉社)、『その青の、その先の、』(体育座り)、空を見上げて』(以上、幻冬舎)、『緑のなかで』『未来の手紙』(以上、光文社)、『つながりの蔵』(KADOKAWA)、『こんばんは、彼方』(小学館)、『純喫茶パオーン』(角川春樹事務所)など多数。

小川かなこ

おがわ・かなこ・東京都生まれ。イラストレーター。第7回TIS公募大賞受賞など受賞歴多数。絵本に『パンダのソフトクリームやさん』『うさぎさんのたんじょうび』(こどものとも年少版、以上、福音館書店)。装画を手かけた作品に、『あかん男』『ほとけの心は妻ごころ』(田辺聖子・作/以上、KADOKAWA)、『傑作はまだ』(瀬尾まいこ・作/ソニー・ミュージックエンタテインメント)など。